夏を迎えて＝注意したいこと……

夏　夏　夏

海水浴

赤旗のある所は危険

まず真先に考えられることは、本格的な海水浴シーズンを迎えて海の危険ということです。

今年もすでに水の機性者がでて居ますが、お子さんをお持ちのご家庭では特に注意が肝要です。

そのお子さん方を水禍から守るために、日赤県支部水上安全委員会と市の教育委員会は共同で、去る六月十六日寄居浜を中心とした海水浴場の海の調査を行いました。この水深調査図は別掲の通りですが、それによりますと、百メートルの沖でも〇、五メートル位しかない遠浅の処があるかと思うと、三十メートル位で三メートルという急に深くなっている処もあって特に低学年生は注意しなければなりません。危険な場所には赤旗の目じるしを立てることになっていますからそういう処では泳がないようにしなければなりません。

水泳の注意

なお、日赤の安全委員会と市の教育委員会は水泳についての一般的な注意を次のように発表しました。

△水に入る時は必ず準備運動を行ってから入ること。

△準備運動が終ったら足先から頭まで水にぬらしてからそろ〳〵と入ること。

△食後やお腹の空いているときは入らぬこと。

△中耳炎、トラコーマ、心臓病、脚気、その他病気にかかっている人は入らぬこと。

△水泳に最もよい時間は午前十時から十二時迄午前十時から六時迄

△あまり冷たい水には入らぬこと。水温は摂氏二十五、六度位が最もよい。

△水に入っている時間は水温やその人の体力によって違うが、大体三〇分位がよい。

△理由のない怖ろしさにおそわれたり、寒気がして気分が悪くなったらすぐ水から上って乾いたタオルなどで全身をふき、着物を着て安静にしていること。

△泳ぎ疲こうとする目標までは思ったよりも遠く帰りは行きの二倍もつかれるから注意すること。

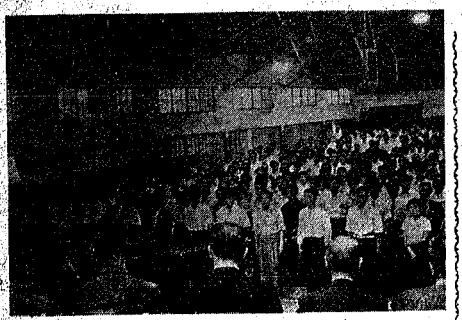
△泳げない人がウキにつかまって沖の方へ出て行くのは最も危険。

△ボート乗りは絶対定員を守ること。（定員だけなら水が入っても浮くように出来ています。）

△お子さんだけで泳ぎに行くことは危険。近所の隣りが協力して大人が付添うようにする。

△赤旗や水中標識などの施設を大切にすること。

（写真は開催前日現場にて）



第二回　市民大学講座開く

受講生　五五三名

市教育委員会主催の第二回市民大学講座は六月二十八日午後六時半、寄居中学校の七つの教室で同時に開講されました。

折柄の雨を衝いて職場から家庭から馳せ付けた受講生は五五三名で、次の時代を荷のう二、三十代の年令層が圧倒的な数字を示していたが、中には十六才の少年や七十四才の老人も交り、市民の講座らしいふん囲気を見せ、終始熱心に講義を受けていた。

海浜管理事務所

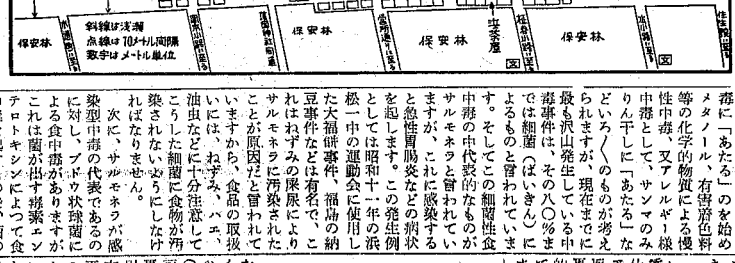
市では海水浴客の安全と利便を図るため寄居浜に新潟市海浜管理事務所を設けました。

この事務所は日々の気象や海流や水温などを調べてお知らせしたり、連絡事項を放送したり、色々な御相談などに応じます。

その他公衆電話（事務所内）シャワー（二カ所）水道（四カ所）等も設備されましたから御利用下さい。

今年は特に「食あたり」が多い

食品の取扱いと選択にもっと気をつけましょう


新潟市寄居浜附近
水深調査図
昭30.6.16日
90メートル
80メートル
50メートル
60メートル
30メートル
30メートル
41メートル
網干場
料線は浅瀬
点線は10メートル間隔
数字はメートル単位
保安林
保安林
保安林
保安林
海水浴場
海水浴場
海水浴場